



## 第80回 「タイの高齢者施設で 理学療法士として活動する」=小林勇一

バンコクから北へ約40キロのところには私が活動しているパトゥムタニー県はある。農業が主要産業の地域ではあるが、大学などの研究機関、工業団地、大型ショッピングセンターがあり、学生の数も多く活気にあふれた街である。私が配属されているパトゥムタニー高齢者社会福祉開発センターは家庭や経済、病気などの問題により自宅で暮らすことが困難な高齢者が90人ほど集団生活をしている長期入所型施設である。

### ◇タイでの高齢化について

タイでは高齢化率（65歳以上人口の割合）が7%（高齢化社会）から14%（高齢社会）へ移行する期間が22年（2005年～2027年）と見込まれ、日本が経験した24年（1970年～1994年）よりさらに急激に高齢化が進むと言われている。また基本的に家族介護が主体であり、日本の介護保険による介護サービスのような制度もないのが現状である。さらに、特別養護老人ホームのような施設もタイ全土で不足している。



### ◇パトゥムタニーのセンターについて

タイ全土に12カ所あるセンターのうちの1つで、社会開発・人間安全保障省が管轄している施設である。入所高齢者に対して食事、住居、衣服、手工芸、農作業、外出、イベントなどの各種アクティビティを提供している。職員はセンター長をはじめとして30人が勤務している。



センターでの生活は集団生活であるが、皆さん毎日元気に明るく過ごしている。身の回りのことがすべてできる自立した方は7割であるが、何かしらの介護が必要な方も3割入所されている。

私は主に高齢者に対して理学療法を提供している。また、車で30分の地域へ行き自宅で暮らしている高齢者に対しても理学療法を提供している。

現在センターにはタイ人理学療法士が勤務しておらず、私が主に理学療法を提供しているが、今後は看護師、ケアワーカーなどと協働して理学療法を展開していけたらと考えている。

### ◇タイでの高齢者観

何らかの問題があり入所している高齢者であるが、毎日元気に笑顔の多い生活をされていて、いつもすごいなと感心している。私のほうが元気をもらうことのほうが多い。そして穏やかな方が多いので癒される。

タイに来てびっくりしたのは、自立している高齢者が車椅子に乗っている高齢者の介助を自然に行っていることであった。職員の数が少ないということもあると思うが、自然に行っていること自体に大変驚いたのと同時に、入所者同士で支え合いの精神ができていることに素晴らしさを感じた。また、タイでは目上の人を大事にするという習慣があるので、若い人は目上の人を自然に敬っている。よく外部から来た学生や社員が高齢者の方の前で深々とお辞儀する場面があるが、見ていてとても気持ちがいいものである。

残りの任期をタイの人々と共によりよい活動としていけるように協力してがんばっていただければと思う。

【筆者紹介】小林勇一（こばやし・ゆういち）病院、介護老人保健施設で理学療法士として7年間勤務した後、2012年6月よりJICA青年海外協力隊としてタイへ赴任。現在パトゥムタニー高齢者社会福祉開発センターにて理学療法士として活動中している。埼玉県出身。1983年5月生まれ。